

ドル高の足音

2013年12月13日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

藤代 宏一

TEL 03-5221-4523

13:00 現在

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	15404.59 (前場終値)	
N Y ダウ	15,739.43	-104.10
D A X (独)	9,017.00	-60.11
FTSE100 (英)	6,445.25	-62.47
CAC40 (仏)	4,069.12	-17.74
上海総合※	2,203.42	0.63

<外国為替>※

ドル円	103.80 円	0.42 円
ユーロドル	1.3756 ドル	0.00 ドル

<長期金利>※

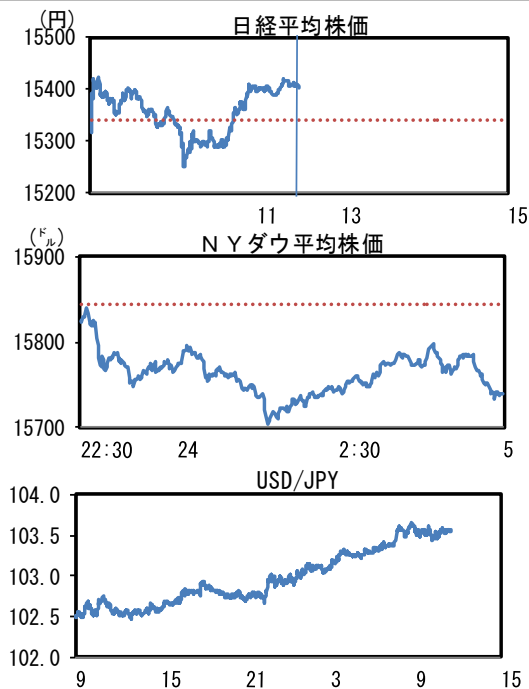
日本	0.689 %	0.02 %
米国	2.877 %	0.02 %
英国	2.898 %	0.04 %
ドイツ	1.839 %	0.02 %
フランス	2.440 %	0.03 %
イタリア	4.103 %	0.04 %
スペイン	4.095 %	0.06 %

<商品>

N Y 原油	97.50 ドル	0.06 ドル
N Y 金	1224.90 ドル	-32.30 ドル

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



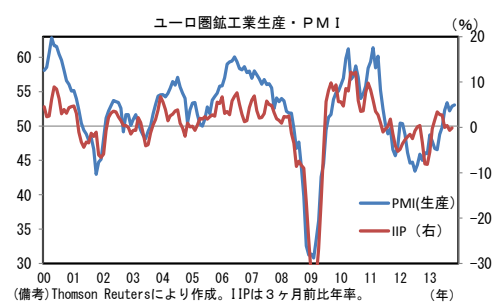
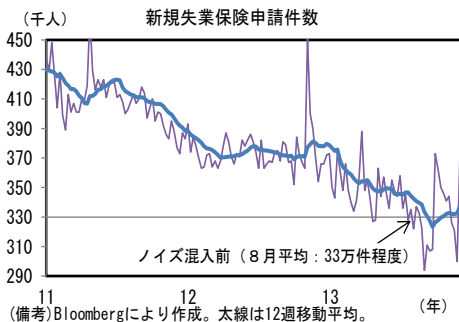
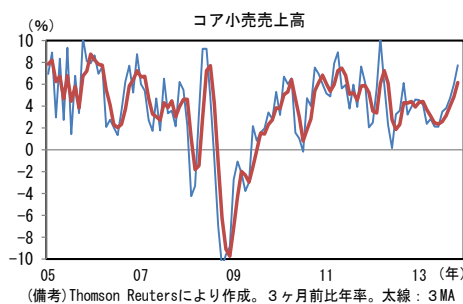
【海外株式市場・経済指標】 ～さすがに強い経済指標は嫌われた～

12日の米国株式市場、N Y ダウ平均株価は続落。前日比▲104.10ドルの15739.43ドルで取引を終了。米経済指標が強い内容となり、Tapering観測が高まったこと背景。

11月小売売上高は前月比+0.7%と市場予想(+0.6%)を上回ったうえ、過去分も上方修正(+0.4%→+0.6%)。好調な自動車・部品(+1.8%)が全体を押し上げたが、除く自動車でも+0.4%と強い。コアも強く、3か月前比年率では+6.1%と増加基調がはっきりしてきた。

新規失業保険申請件数は36.8万件と前週(30.0万件)から急増(市場予想:32.0万件)。過去2週間の大幅な減少は季節調整の歪みが指摘されていたが、逆に今週分は実勢より嵩上げされている可能性がある。過去3ヶ月程度の度重なるノイズ混入により、実勢が読みづらくなっているが、12週移動平均でみると緩やかな減少トレンドを辿っていることが見て取れる。

10月ユーロ圏鉱工業生産指数は前月比▲1.1%と市場予想(+0.3%)を大幅に下回るネガティブサプライズ。前月分は上方修正(▲0.5%→▲0.2%)されたが、それでも弱い内容に変わりはない。振れの大きいエネルギーの減産(▲4.0%)が響いたが、耐久財(▲2.4%)や資本財(▲1.3%)も弱かった。国別では、ドイツ(▲1.2%)を筆頭にフランス、スペインなどが減産。ただ、先行きについてはPMIなどサーベイ指標が増産を示唆していることなどから増産に回帰する見込み。



【外国為替相場・債券市場】 ～異次元口先介入（スティーブンスRBA総裁）～

12日の海外時間はUSD全面高。USD/JPYは「欧米株下落・日経平均先物上昇」という稀な組み合わせが成立するなかで上昇。主要通貨で最弱となったのはAUD。スティーブンスRBA総裁は「AUD/USDが0.85まで下落する必要がある」とターゲット型の口先介入を断行、直後にAUDは急落し0.90を割れた。

米10年金利は+2.4bpの2.88%。欧州時間から緩やかに上昇を開始し、米経済指標を通過後一時2.89%に迫った。欧州債市場も全体的に軟調。独10年金利は+2.5bpの1.84%。欧州株が下落するなかイタリア、スペイン金利は上昇し、対独スプレッドはワイドニング。

【国内株式市場・経済指標】 ～短観は当社予想：大企業製造業DIは+16～

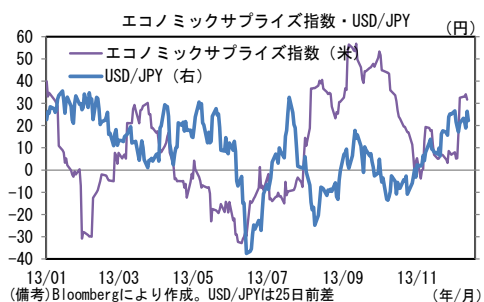
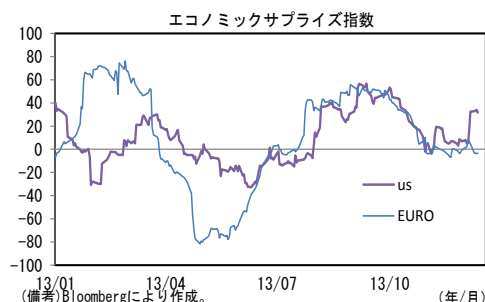
13日の東京株式市場、午前の日経平均株価は反発。欧米株安を受けて小安く寄り付いたものの、為替の円安や前日までの下落の反動も意識され、プラス圏に浮上した。アジア株も強い。

週明け月曜日は日銀短観（12月調査）が発表される。当社は大企業製造業DI：+16（先行き：+17）、大企業非製造業DI：+17（同+19）を見込んでおり、現状・先行き共に今次サイクルで最高を記録すると予想している。消費税率引上げに伴う駆け込み需要が一時的な押し上げ要因として効いているとみられるが、生産・輸入・消費のハードデータからは現時点で主だった駆け込み需要は検出されていない（除く住宅）。駆け込み需要を除いても企業の景況感は改善しているとみて良いだろう。株価・為替への影響は、FOMCを直前に控えていることもあり限定的とみられる。

【注目点】 ～ドル高の足音～

EUR/USDは1.37台後半で推移し、ECBのサプライズ利下げ前の水準（1.38）に肉薄している。EUR高の主背景は金融政策だろう。①ECB理事会後のドラギ総裁発言が追加緩和に消極的と受け止められたこと、②過剰流動性の減少に起因する短期金利の上昇、などがEURの支援材料になっている。しかしながら、ユーロ圏の経済指標がこのところ市場予想を下振れる一方、米国のそれは上振れが目立っており、景況感格差は米>欧となっている。エコミックサプライズ指数でもユーロ圏がマイナス圏に突入する一方、米国はプラス圏で推移しており、ファンダメンタルズから判断するとEUR/USDは下落し易いと言える。

また、米エコミックサプライズ指数はUSD/JPYの参考指標としても有効。米エコミックサプライズ指数がプラス圏で推移している間はドル高が進み易いと考えて良いだろう。



【予想レンジ（5営業日以内）】

NYダウ平均株価 15450～16000ドル 日経平均株価 15100～15600円 ドル円 101.50～104.50円

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。